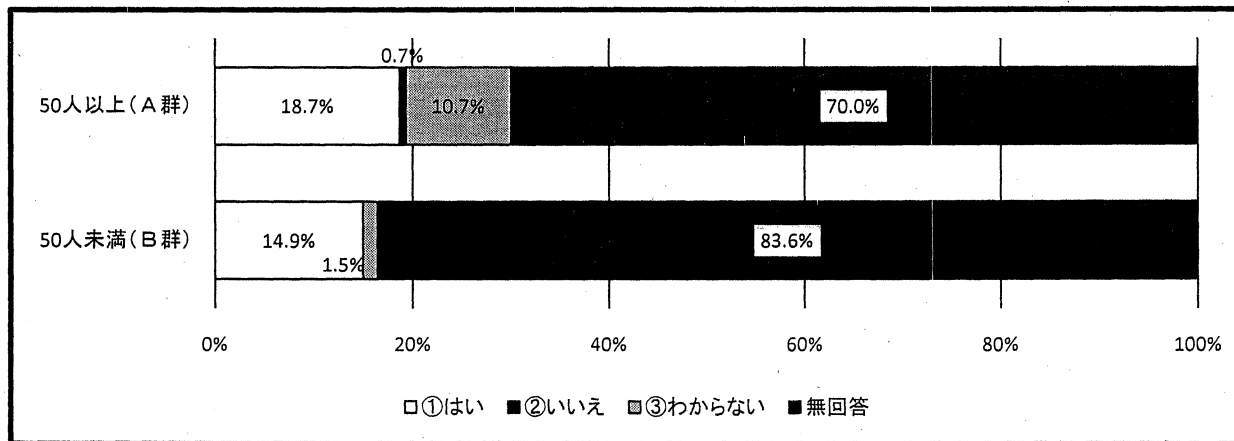
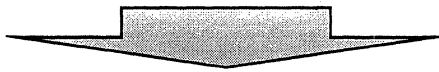
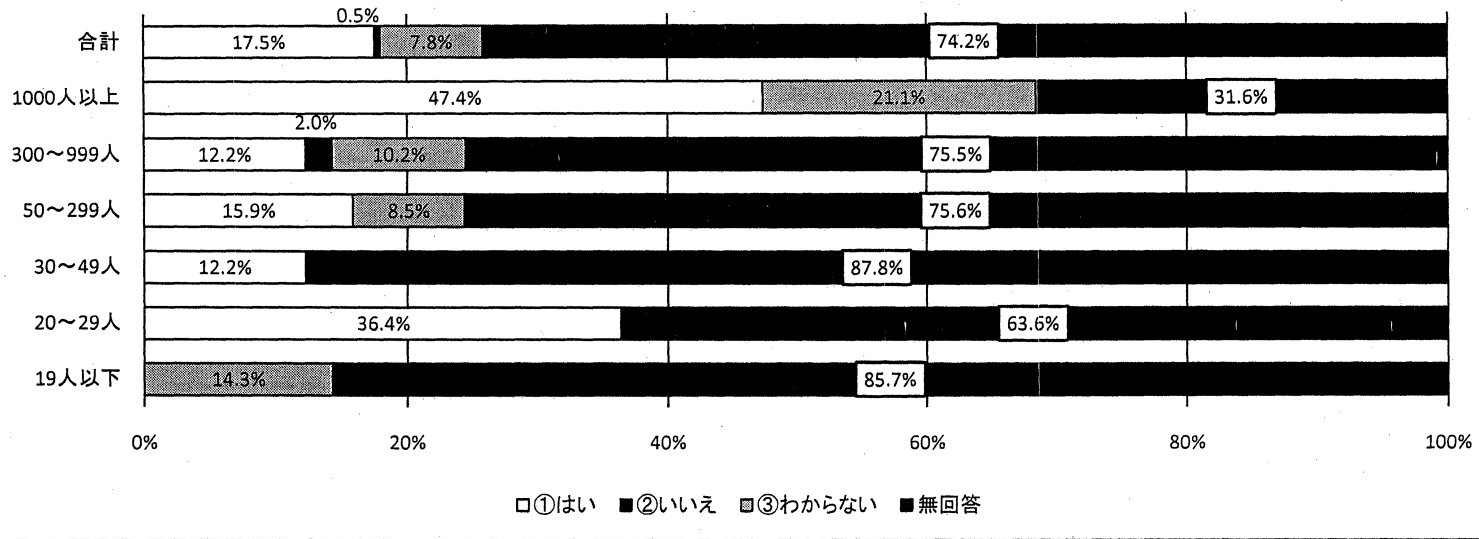
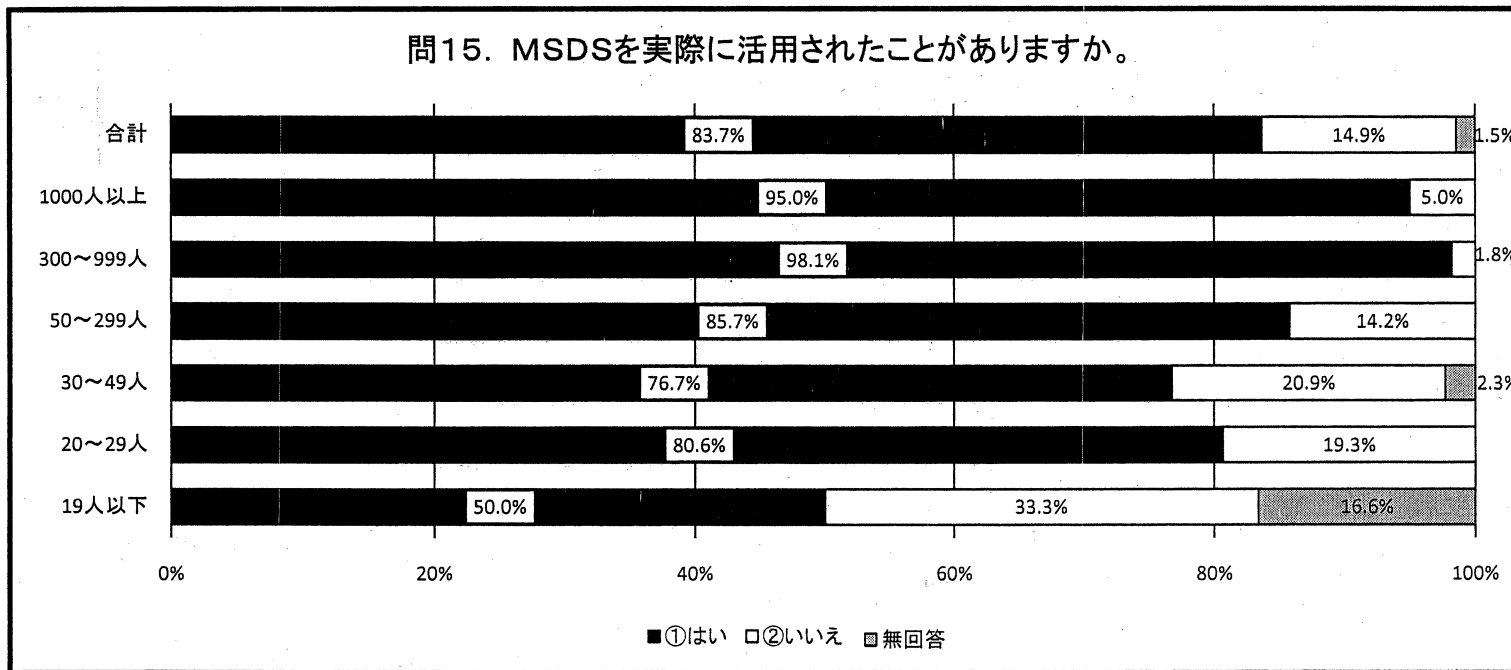


問8. 問6で「①はい」と答えた方に伺います。
 (3) 作業者が理解していると思いますか。



MSDSを理解していると思われる作業者は、1000人以上の事業場では、半分近く認められたものの、全体としては無回答の事業場が多かった。

問15. MSDSを実際に活用されたことがありますか。



入手したMSDSを活用している事業場は、19人以下の事業場を除き、おおむね8割を超えている。また、規模が大きいほど活用度は大きくなる傾向がある。

トルエン取扱マニュアル

人体への影響

- 吸入すると、高濃度では麻酔作用で意識がなくなることがあり、高濃度の吸入を繰り返すと、呼吸器系の障害を起こす。低濃度でも頭痛、めまいを生ずることがある。
- 液体でも蒸気でも皮膚や粘膜（眼、のど等）を刺激する
- 皮膚に直接触れると、皮膚の脂肪を溶かし、浸透しやすくなる
- 女性労働者が生理周期以上に暴露すると流産等の危険がある
- 健康濃度：20ppm



性質と危険性

- 無色、芳香性の液体で水に溶けにくい
- 引火点4℃の非常に引火性が高い液体である
- トルエン蒸気は空気より重いので、窪みや床付近など低い場所では高濃度となって滞留することがある
- 水に浮くため、下水に流すと水面上に広がるので危険である
- 空気と混合すると爆発性の混合ガスができる(爆発限界：11~7.1%)
- 単管でも使用されるが、シンナーとして、数種類の有機溶剤と混合物のことも多い

↓
容器などのラベルの表示やMSDSを注意して見ること

取扱い及び保管上の注意

トルエンやシンナーの取扱い作業

- 静電気帯電防止措置を講じた作業服、作業靴を着用する
- 容器等へ注入するときは接地を行う
- 作業を始める前に必ず換気装置を稼働する
- 当日の作業に必要な量だけを持ち込み、涼しい場所に置く
- 容器は使用の程度フタをする。使用後の空容器は、フタをして置かれた場所に置く
- 有機溶剤等が付着した工具や紙はフタ付容器に入れ戻す
- 流しこぼした場合は、水で洗い流さないで、乾燥砂や不燃材で吸収して、容器に入れ戻す
- 有機溶剤の周囲では、溶接、研削、その他、火花の発生作業を行わない(たばこ・火気厳禁)
- トルエンで手を洗ったり、拭いてはいけない



保護具は必要に応じて使用

- 有機ガス用防毒マスクを装着して作業を行う。保護眼鏡はゴーグルを用いる
- 手で取扱う場合には、トルエンが透過しない専用の保護手袋を装着する
- 皮膚は露出しないように、トルエンが透過しない専用の作業衣又は保護衣を着用する



↓
作業主任者・衛生管理者に尋ねること

応急措置

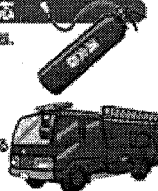
- 吸入して気分が悪くなった場合
直ちに新鮮な空気の場所に移動・休息させ、原則、医療機関を受診させる
- 意識不明・呼吸停止の場合
直ちに119番通報して医療機関を受診させる。呼吸停止の場合は直ちに人工呼吸を行う
- 眼に入った場合
まぶたをよく開けて、顔を水道水など流水で15分以上洗い流す。痛みが軽くなり、見えにくい時は速やかに眼科医を受診させる
- 衣服等に付いた場合
汚染された衣服、靴を脱がせ、付着部位を石鹸水、流水でよく洗い、気分が悪い場合には医療機関を受診させる



医療機関にはMSDSを持参させること

火災時の対応

- 消火には、粉末消火器、炭酸ガス消火器、泡消火器を用いる
- 水をかけると、かえって火を広げるので水はかけない
- 火災の際、多量の黒煙と有害な一般化炭素が発生するので注意を要する
- 直ちに消防署(119番)に通報する



連絡先

社内の連絡先：
 医療機関の名称：
 ☎(- -)
 眼科医の名称：
 ☎(- -)